

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【鈴谷小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)ことばと体験を通して、自分で考え、学びを組み立てることができる資質・能力 (2)仲間と学び合い、多様な考えに触れ、自分の思いや考えを深め、伝えることができる資質・能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)読書や語彙指導、漢字の意味理解、生活に根ざした実体験(実測・単位換算など)を通して、基礎基本を固めつつ、実際に使う場面を意図的に設定する。【読書:1回/週、語彙指導・漢字の意味理解:毎日、実体験の使用:1回/単元】 (2)自分の思いや考えを自分の言葉で表現する協働的な学びの場の設定(ICTの活用)【1回/単元】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	本校は、国語・算数とも全国平均を上回り、特に基礎的な知識・技能や基本的な数量処理において高い成果が見られる。国語では、「話すこと・聞くこと」や漢字・語句に関する知識及び技能の定着が見られたが、資料から必要な情報を引用し、自分の考えを根拠とともに記述する問題に課題が見られた。算数では、基礎的な計算・数の理解において成果が感じられるが、複数の情報を整理・分析して判断する問題に課題が見られた。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語・算数ともに、基礎・基本が身についている。一方で、複数の情報を整理・比較し、既有的知識を活用して理由を説明したり、自分の考えを条件に即して文章化したりすることに課題が見られる。今後は、知識・技能の定着を基盤としながら「根拠を明確にして説明する」「情報を整理して判断する」「考えを文章や図、式などで表現する」といった思考・判断・表現の質を高める授業改善が重要である。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	(1)読書活動を週1回、語彙指導・漢字の意味理解を日常的に実施した。また、実測や単位換算などの体験活動を各単元に取り入れたことで、学習した知識を実際の場面で活用しようとする姿が見られた。 (2)学年の児童の実態に応じて、ICTを活用した協働的な学習を各単元で実施し、自分の考えを文章や発表で表現する機会を確保した。友達の考えを参考にしながら、自分の考えを深める児童が増えてきている。
	A	↓
学力向上策の 見直し	変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所